

戦争を語り、後世を平和にする一助になれば――

8月18日で満92歳になる諸田さんは、とても温厚快活な印象ですが、第二次世界大戦の激戦を生き抜き、牧之原台地にあった「大井海軍航空隊基地」で終戦を迎えた歴史の生き証人、語り部です。

【自らが経験した戦争】

諸田さんは、17歳のころに志願して憧れの海軍航空兵になりました。偵察隊として実直に働き、やがてラバウルやガダルカナル島などの南方激戦地で戦うことに。過去を振り返り、諸田さんは「当時はね、命令のままに行動することが当然で、どんな状況でも乗り越えてやり遂げようとしたものだよ」といいます。

しかし、そんな状況下でも疑問に感じた出来事があったそうです。偵察練習生の同期一人を含む8人が、参謀長の言いつけ通りにした結果、一時的に敵の捕虜になってしま



ました。救出されたものの、8人は罪人扱いされ、暗黙の命令で全員自爆したのです。

諸田さんは、「自分だったらどうしただろう」と動転し、深く悩みました。理不尽な死を目の当たりにし「戦争は悲

平和な世にする参考になればと「大陸の空 南方の空」という本を出版しました。これが新聞に取り上げられると、

思いのほか大反響を呼び、当初30部の製本にもかかわらず、電話や手紙で求められる

まれた人たちに、ありのままに語って、争いは話し合いで解決すべきと伝えたいんだ」

諸田さんの思いは小学生にも伝わり、「忘れないよ。絶対に戦争はしません」というお礼状が届いたそうです。「これからの時代を担う子どもたちには、主張するところを引くところをわきまえ、円満な関係を築ける社会人になってもらえたら頼もしいなあ」と期待しています。



戦争の語り部  
もろた へい ち  
諸田 平八 さん (金谷泉町)

惨だ、絶対に繰り返してはいけない」と強く諸田さんは訴えます。

【長生きに感謝し語り継ぐ】  
80歳まで会社に勤め、ようやく落ち着いた諸田さんは、

まさに300部も贈呈するごとに。それまで以上に、戦争の語り部として招かれる機会も増えました。「ここまで長生きできたからには、私の体験を話すべきだと思ふ。戦争の実態や悲惨さを、平和な世に生

日頃から頼りにされることの多い諸田さんは「何をすることも、長生きさせてもらったお礼の気持ちでさせていただいている」と優しい笑顔を絶やしません。

【何事もお礼の気持ちで】

小中学校以外にも、掛川市や焼津市などの生涯学習、町内会、そして自衛隊の航空隊員と、語り部を頼まればできる限り引き受けます。「今の航空隊員は実戦を知らないから、自分の戦闘体験を主に話すよ。けどやはり最後には、どんな外交問題も、話し合いで解決しようと伝えるんだよ」



学習グループに戦争体験を語る様子



Shimadian File #39